

アイミクス配合錠について

【概要】

イルベサルタン（商品名：アバプロ/イルベタン）とアムロジピン（商品名：アムロジン/ノルバスク）の配合剤である。アムロジピンはカルシウム拮抗薬の中心的薬剤で、イルベサルタンは作用が強力で（オルメサルタン：オルメテック®に次いで二番目）、作用時間が長く（テルミサルタン：ミカルディア®に次いで二番目）、腎保護のエビデンスをもつ（腎臓移行性は一番）ARBである。ARBとCa拮抗薬の配合剤としては、これまでに、オルメサルタン・アゼルニジピン配合剤（商品名レザルトス）、バルサルタン・アムロジピン配合剤（商品名エックスフォージ）、カンデサルタン・アムロジピン配合剤（商品名ユニシア）、テルミサルタン・アムロジピン配合剤（商品名ミカムロ）が発売されており、アイミクスは、5番目に発売されるARB＋Ca拮抗薬の配合剤となる。近年、高血圧症には複数の成因が存在することから、作用機序の異なる薬剤を組み合わせた併用療法が推奨されている。中でも、アンジオテンシン変換酵素（ACE）阻害薬やARBなど、昇圧に深く関与しているレニン・アンジオテンシン系（RAS）を強く抑制する薬剤と、Caチャネル拮抗作用を有するCa拮抗薬の併用は、優れた降圧効果を示すことが明らかになり、この2剤を配合した製剤も多く発売されるようになっている。

アイミクス配合錠LD→イルベサルタン100mg＋アムロジピン5mg

アイミクス配合錠HD→イルベサルタン100mg＋アムロジピン10mg

ちなみに、アイミクスの名前の由来は、ア（ムロジピン） イ（ルベサルタン） ミ（ツ）クスとのこと。

平成22年12月より新医薬品の処方日数制限の取り扱いについて「同様の効能・効果、用法・用量の既収載品の組合せと考えられる新医療用配合剤など、有効成分にかかる効能・効果、用法・用量について、実質的に、既収載品によって1年以上の臨床使用経験があると認められる新医薬品については、新医薬品に係る処方日数制限を設けないこととする。」と中医協で定められ配合錠の処方が当院でも急激に伸びてきている。患者のコンプライアンスや経済面から考えると当然配合錠を推進していくべきである。しかし、当院では医師より「何の成分を何mg含有した薬剤なのか瞬時に判断しにくい」との意見も多く、配合錠を処方したがもともと処方されていた薬剤の削除を忘れてしまっており重複処方の疑義照会を行うことが少なくないなど、今後十分な医療安全対策が求められると考える。

【参考】

大日本住友製薬 医療情報サイト

<https://ds-pharma.jp/product/aimix/>